

2007 年度

事 業 報 告 書

学校法人 鎮西学院

長崎県諫早市栄田町 1057 番地

## ■ 学 院

### 建学の理念に堅く立って

院長 林田秀彦

2008年度目標聖句を「希望を持って喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい」（ローマの信徒への手紙12章12節）と掲げました。

“希望を持って未来をつくる”これが学院の使命であり、このために教職員の密接な意思疎通を図り、校友会、PTA、関係者共に一致協力して鎮西学院教育を推進していかねばならないと思います。

日本の社会が直面する問題は、「科学万能、経済優先主義」と「相対主義」であり、まさに「神を押しのけた文明」（バチカン大使上野景文氏）の広がりであるといえます。そこでは倫理観の喪失、生命の尊厳を軽視、自己中心的欲望の追求、等による悲惨な事件が繰り返され病める社会の現実となっています。

鎮西学院はこのような時代の中で、荒海を航海する小船のようですが、創立127年の歴史を帆として時代の風を受け止め、キリスト教に基づく建学の精神を羅針盤として、「品性高潔なる人格」の育成に励みます。

#### I 建学の理念

建学の理念を「鎮西学院ステートメント」として表す

『鎮西学院は、キリスト教に基づいた、品性高潔なジェントルマンを育てようと志したC.S. ロング博士によって、1881年10月23日、長崎東山手の地に「カブリー英和学校」として誕生した。それは博士がアメリカを立つ前夜の祈祷会で、カブリー夫人が日本の青年教育のためにと2ドルを捧げられたことに由来する。その後、長崎竹の久保に新築移転し、「敬天愛人」を教訓とし、多くの人材を世に送り出した。

戦時中のキリスト教弾圧の中で、チャペルは堅持されたが、ついに中断を迫られ、また学徒動員法によって戦争協力を余儀なくされたことを、神に懺悔しなければならない。

1945年8月9日、長崎に投下された原爆は学院に致命的な打撃を与えた。戦後、諫早に移転し、苦難の中に神による希望を示されつつ、地域に必要とされる教育を目指し、幼稚園、高等学校、大学を擁する学院へと導かれてきた。

2005年創立125周年には、被爆60周年を祈念して平和宣言を発表した。これらをもって、私たちは新たなる21世紀に向かう鎮西学院の理念を4つのPによって表明する。

## 鎮西学院 4つのP

Personality	一人一人の個性を重んじ、品性高潔なる人格に育てる。 (C.S ロングの言葉より)
Piety (Pray)	「敬天愛人」「自治敬虔」を尊ぶ祈りのこころを育てる。 (高校校歌より)
Practice	社会に貢献できる実践力を育てる。 (長崎ウエスレヤン大学の特質より)
Peace	平和を祈り、隣人を愛し、共に生きようとするサーバントリーダーシップを育てる。 (平和宣言より)

以上理念についてのステートメントは山城順大学宗教主事の案文による。なお解説文を作成し共通の学びによって理解を深める。

## II 新体制 新理事長として栗林英雄氏の就任

鎮西学院幼稚園、高等学校、長崎ウエスレヤン大学は、理事会が任命した各部の長によって教育運営され、各部門の年間教育計画と予算、決算等が理事会において承認される形であったが、この危機的状況を克服していくためには、法人経営と教育の役割を明確にし、機動的な意思決定ができる体制の整備が不可欠となった。私立学校法の改正においても、理事会がそれぞれの役割の所在を明確にするよう指示されている。

学院では、実業界のリーダーとして活躍され、卒業生として長年校友会長の責任を負われ、クラブ活動を支援されるなど、学院を支えてくださっておられる栗林英雄氏を新理事長に迎え法人体制の刷新を図るものです。真に感謝すべきことです。

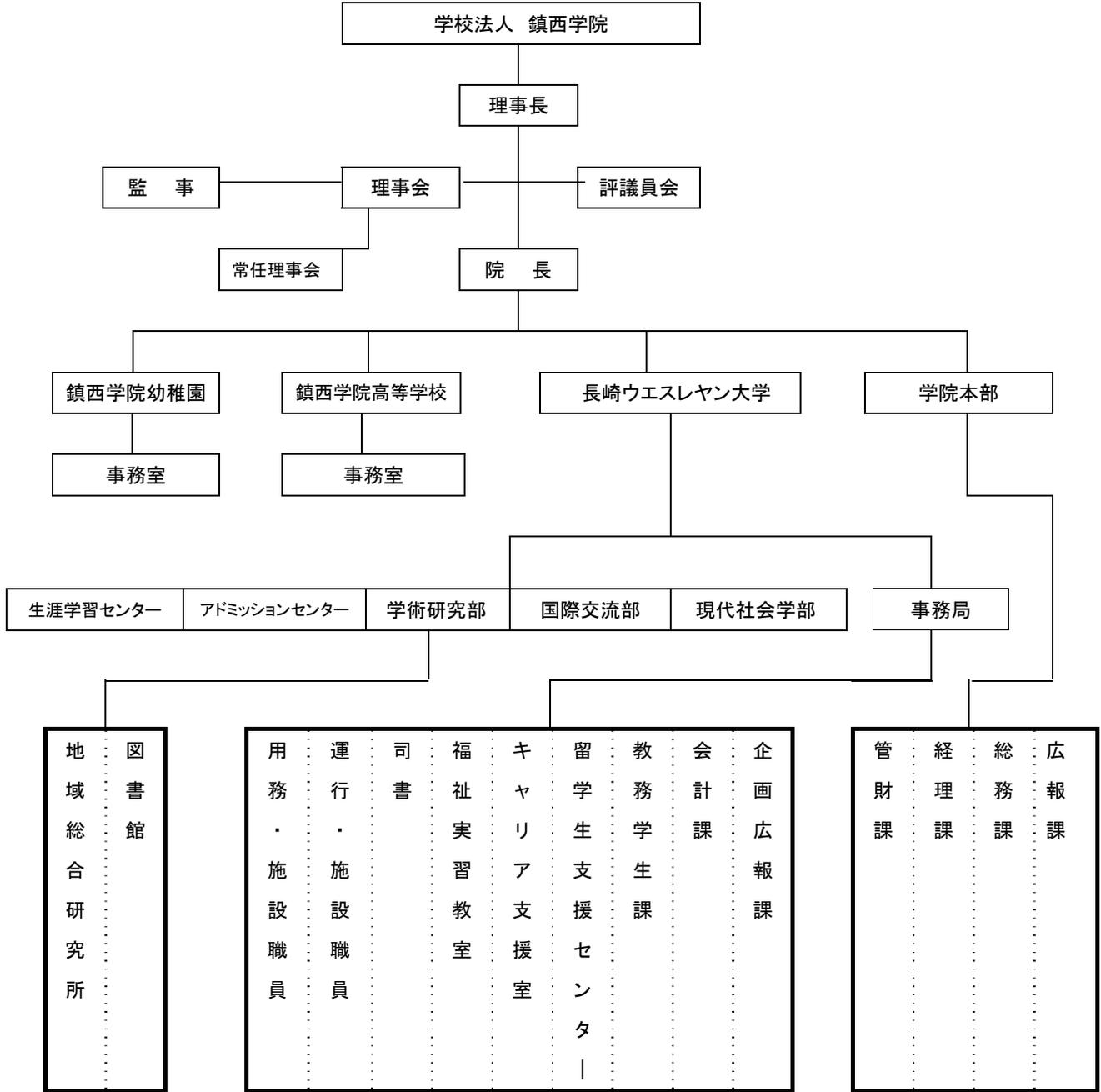
## III 行事計画〔学院全体としての取り組み〕

- ・ 新年礼拝 1月1日 9時15分 チャペル
- ・ 平和祈念礼拝 8月9日
- ・ 諫早市民クリスマスコンサート 2008年12月13日(土)
- ・ 幼稚園、高校、大学における礼拝の充実、と聖書教育プログラムの協力、
- ・ 物故者祈念礼拝、創立記念礼拝、メイ・フェスタなどへの参加
- ・ キリスト教センター開設
- ・ 教会〔長崎地区〕との協力関係
- ・ 高校大学教育プログラムの連携
- ・ 校舎、施設等改築構想委員会
- ・ 鎮西学院カブリー教育基金(仮称)

## ■ 鎮西学院のあゆみ

- 1881.10 (明治 14) 本学の前身、加伯利(カブリー)英和学校を長崎市東山手 6 番地に創設。創設者・神学博士 C.S.ロング氏、初代校長となる。
1889. 9 (明治 22) 校名を鎮西学館と改称。つづいて学則を改めて、予科を 5 ヶ年制の中学部、高等科を 3 ヶ年制の高等学部とする。
1906. 5 (明治 39) 私立鎮西学院と改称し、笹森卯一郎氏が日本人初の院長に就任する。
1930. 1 (昭和 5) 新築校舎竣工につき東山手の旧校舎を去り、竹之久保町の移転に移転する。
1945. 8 (昭和 20) 原子爆弾の投下により校舎壊滅し、職員 7 名、生徒 110 余名が犠牲となる。
1946. 3 (昭和 21) 諫早市永昌町海軍病院跡に移り開校。
1947. 4 (昭和 22) 新制中学と新制高等学校が男女共学で開校する。
1951. 4 (昭和 26) 中井が原の旧ゴルフ場跡地を購入し移転する。  
(1949 年寄宿舍、1951 年高校校舎、1952 年中学校校舎、1953 年体育館)
1955. 4 (昭和 30) 幼稚園設置。
1962. 1 (昭和 37) 創立 80 周年に講堂が落成し、創立 80 周年記念式典と講堂の献堂式を行う。
1966. 4 (昭和 41) 中学校を閉校して、短期大学(英語科)を設置。翌年、教養科を増設。
1980. 4 (昭和 55) 鎮西学院短期大学を長崎ウエスレヤン短期大学と改称する。
- 1981.10 (昭和 56) 創立 100 周年を迎える。
1983. 9 (昭和 58) 100 周年記念館落成する。
- 1991.10 (平成 3) 創立 110 周年を迎える。1988 年より 3 ヶ年に亘り、高校校舎、体育館、新ロング寮を完成させる。110 周年記念写真集発行。
1996. (平成 8) 短期大学創立 30 周年を迎える。
- 2001.10 (平成 13) 創立 120 周年を迎える。
2002. 4 (平成 14) 長崎ウエスレヤン大学開校。
2005. 4 (平成 17) 鎮西学院幼稚園創立 50 周年を迎える。
2005. 8 (平成 17) 被爆 60 年を迎え、平和記念事業として、平和の鐘の建立、平和宣言の碑の建立、長崎から諫早までの平和大行進を行う。
2006. 7 (平成 18) 創立 125 周年記念写真展「いにしへの長崎」を長崎県美術館で開催。
- 2006.10 (平成 18) 創立 125 周年を迎える。創立 125 周年記念式典を行う。  
125 周年記念誌「鎮西学院物語」および火焰の人「笹森卯一郎の生涯」を発行。125 周年記念公演『蝶々さん』～ある宣教師夫人の日記より～を公演。作/市川森一 主演/栗原小巻 演出/高谷信行氏

◆学院組織



## ■ 学院役員

2008年5月29日現在

理 事 長	栗 林 英 雄
院 長	林 田 秀 彦
大 学 長	森 泰 一 郎
高 校 長	川 村 正 徳
園 長	渡 部 勇
法 人 事 務 局 長	加 藤 育 男
宗 教 主 事	山 城 順(大学) ・ 鉄 口 宗 久(高校)

## ■ 理事会

理事会開催状況

- ・ 2007年5月29日 定期理事会
- ・ 2007年7月17日 臨時理事会
- ・ 2007年9月25日 臨時理事会
- ・ 2007年11月5日 定期理事会
- ・ 2008年1月24日 定期理事会
- ・ 2008年2月22日 臨時理事会
- ・ 2008年3月25日 定期理事会

○理事・監事

(理事定数 15名 監事定数 2名)

2008年5月29日現在

番号	職 名	氏 名	選任区分	職 業
1	理 事 長 (非常勤)	栗 林 英 雄		理事長
2	理 事 (常勤)	林 田 秀 彦	職 務 上	院長
3	理 事 (常勤)	森 泰 一 郎	職 務 上	学長
4	〃 (常勤)	川 村 正 徳	職 務 上	校長
5	〃 (常勤)	渡 部 勇	職 務 上	園長
6	〃 (常勤)	加 藤 育 男	職 務 上	法人事務局長
7	〃 (非常勤)	栗 林 英 雄	校 友 会	九州ガス㈱代表取締役
8	〃 (非常勤)	市 川 森 一	校 友 会	脚本家
9	〃 (常勤)	山 城 順	教 職 員	宗教主事
10	〃 (常勤)	鉄 口 宗 久	教 職 員	宗教主事
11	〃 (非常勤)	齊 藤 堅 固	学識経験者	九州学院監事
12	〃 (非常勤)	杉 原 宏 一	学識経験者	学院教育顧問
13	〃 (非常勤)	森 俊 介	学識経験者	長崎病院院長
14	〃 (非常勤)	西 原 英 麿	学識経験者	
15	〃 (非常勤)	瀬 頭 昭 治	学識経験者	杵ノ川酒造代表取締役
16	〃 (非常勤)	橋 本 滋 男	教 役 者	前同志社教授
17	監 事 (非常勤)	渡 瀬 寛		㈱ワタセ工芸社代表取締役
18	〃 (非常勤)	井 手 雅 康		税理士

## ■ 評議員会

評議員会開催状況

- ・2007年5月29日 定期評議員会
- ・2007年7月17日 臨時評議員会
- ・2007年11月5日 臨時評議員会
- ・2008年3月25日 定期評議員会

○評議員

(評議員定数 31名以上 32名以内)

2008年5月29日現在

番号	職名	氏名	選任区分	番号	職名	氏名	選任区分
1	評議員	林田秀彦	職務上	26	評議員	齋藤久美子	幼稚園保護者
2	〃	森泰一郎	職務上	27	〃	齊藤堅固	学識経験者
3	〃	川村正徳	職務上	28	〃	杉原宏一	学識経験者
4	〃	渡部勇	職務上	29	〃	森俊介	学識経験者
5	〃	金原俊輔	職務上	30	〃	西原英磨	学識経験者
6	〃	川崎健	職務上	31	〃	山口哲生	学識経験者
7	〃	山城順	職務上				
8	〃	鉄口宗久	職務上				
9	〃	加藤育男	職務上				
10	〃	内村公義	大学教員				
11	〃	佐藤快信	大学教員				
12	〃	鈴木勇次	大学教員				
13	〃	向敏彦	高校教員				
14	〃	早稻田信衛	高校教員				
15	〃	原建彦	高校教員				
16	〃	米崎貞博	大学職員				
17	〃	駒庭高明	高校職員				
18	〃	栗林英雄	校友会				
19	〃	市川森一	校友会				
20	〃	北浦定昭	校友会				
21	〃	西嗣也	校友会				
22	〃	橋本滋男	教役者				
23	〃	武富爲厚	大学保護者				
24	〃	阿比留みさき	高校保護者				
25	〃	池田康則	高校保護者				

■ 教職員状況 2008年5月1日現在

鎮西学院本部

区分	職種等	人 員
	理事長(非常勤)	1
	院 長	1
	事務局 長	1
	総 務 課	3
	経 理 課	2 (1)
	管 財 課	(1)
	用務・施設職員	1
	合 計	9 (2)

長崎ウエスレヤン大学

区分	職種等	人 員
教育職員	学 長	1
	教 授	15
	准 教 授	7
	講 師	5
	助 教	2
	非 常 勤	60
	合 計	90
事務局	事務局 長	1
	総 務 課	(3)
	企 画 広 報 課	4
	会 計 課	(4)
	教 務 学 生 課	6
	福祉実習教育室	3
	キャリア支援室	2
	留学生支援センター	2
	図 書 館	2
	運行・施設職員	1
学 科 事 務	(5)	
	合 計	21 (12)
	合 計	111 (12)

鎮西学院高等学校

区分	職種等	人 員
教育職員	校 長	1
	教 頭	1
	教 諭	39
	養 護 教 諭	2
	講 師	1
	非 常 勤 講 師	30
	合 計	73
事務・運用用務	事 務 長	1
	庶 務 ・ 経 理 係	6
	司 書	1
	運 行 ・ 施 設 職 員	7
	寮 務 ・ 寮 生 活 指 導 職 員	1
	用 務 ・ 施 設 職 員	1
	合 計	17
	合 計	90
鎮西学院幼稚園		
区分	職種等	人 員
教育職員	園 長	1
	主 任 教 諭	1
	教 諭	3
	合 計	5
事務	運行・施設職員	1
	合 計	6
部 署		
	人 員	
	鎮 西 学 院 本 部	9
	長 崎 ウ エ ス レ ヤ ン 大 学	111
	鎮 西 学 院 高 等 学 校	90
	鎮 西 学 院 幼 稚 園	6
	合 計	216
	合計 (除く非常勤)	126

( ) 内は兼務職員で実数に含まず

■教職員採用・退職状況

(人)

部 門	採用(2007/4~08/3)	退職(2007/4~08/3)
本 部 事 務 職 員	0	1
大 学 教 員	2	4
大学事務・労務職員	4	1
高 校 教 員	0	1
高校事務・労務職員	2	3
幼 稚 園 教 員	1	0
幼稚園事務・労務職員	1	0
合 計	10	10

## 長崎ウエスレヤン大学 2007 年度 事業報告

### I 教育研究分野

#### 1. キリスト教主義人格教育関連事業報告

##### 1) ピースアワーや学内外での様々なチャペル活動

4月～1月の学期中、毎週水曜日 10:30～11:00 にピースアワーを実施した。建学の精神や学院の歴史、留学や福祉実習等の様々な学生の活動報告の場とした。

この他、クリスマス礼拝やパストラルケア講演会、平和講演会の主催等の活動を行った。

2) 学生の主体的参加・参画態度の動機付けやリーダーシップと母校愛を醸成するため、新入生交流会やメンタルヘルスケア、課外活動の支援、May Fiesta 等による異文化理解プログラムを実施した。

- ① 新入生交流会・・・学部新入生・交換留学生・日本語教育プログラム生を対象として、「学生相互や教職員との交流」をテーマに4月23日に「いこいの村長崎」にて開催。
- ② メンタルヘルスケア・・・学生相談室にカウンセラー（非常勤）2人を配置。学生委員会のもとにメンタルヘルスケア委員会を設置し、学生相談室の利用状況、ケアの必要な学生への対応など、夏期FD研修会にてカンファレンスを実施。
- ③ 課外活動の支援・・・テニス部の学外コート使用料補助、各体育部の遠征費の補助、引率を実施。

#### <体育系部活動の主な成績>

クラブ名	大会名	結果
バレーボール部 (男子)	九州大学春季リーグ	7部 3位
	九州大学秋季リーグ	7部 2位
バレーボール部 (女子)	九州大学春季リーグ	7部 優勝
	九州大学秋季リーグ	6部 6位
卓球部(男子)	長崎県学生新人選手権大会	シングル 準優勝 本多直樹 ダブルス 準優勝 青木・橋本組
	全九州学生春季選手権大会	ダブルス 3位 本多・三根組 団 体 3部 4位
	長崎県学生春季選手権大会	シングル ベスト8 本多直樹 ダブルス ベスト8 本多・三根組
	中地区卓球選手権大会(一般)	シングル 準優勝 本多直樹
	全九州学生秋季選手権大会	団 体 3部 4位

クラブ名	大会名	結果
テニス部（女子）	全九州学生夏季選手権大会	シングル ベスト 32 川津由希 ダブルス ベスト 16 川津・浦田組
	諫早市テニス協会選手権大会	シングル 優勝 川津由希 ダブルス 優勝 川津・浦田組
軟式野球部	第1回 Spring Baseball トーナメント	準優勝
	第2回 Summer Baseball トーナメント	8位
	第3回 Spring Baseball トーナメント	9位
	第11回炎のドッジボール大会	優勝
バドミントン部	長崎県新人戦	シングル 優勝 永田竜之介 ダブルス 優勝 永田・池田組
バスケットボール部	大村市クラブチームリーグ戦	優勝

④ May Fiesta 等の異文化理解プログラム・・・May Fiesta、国際フォーラム等の異文化理解プログラムを、留学生と本学日本人学生の共同企画により実施。

- May Fiesta・・・5月17日開催。本学留学生による各国フードコートや語学教室、ゲストによる多彩なライブパフォーマンスなど。学生スタッフ60人による運営により、来場者数約300人を動員。
- International Café・・・06年度より、毎月最終木曜日の夕方開催。アメリカ、カナダ、ブラジル、タイ、フィリピン、中国、韓国、台湾、毎回、留学生の母国であるいずれかの国をテーマに異文化体験プログラムを開催。多数の高校生及び一般市民の参加を得た。
- International Forum, Speech Contest・・・11月・12月に実施。留学生を交えた異文化理解についてのフォーラム及び本学学生による英語による各種発表を県内高等学校英語担当教員により審査。

3) 障害学生の支援体制の整備に引き続き取り組んだ。特に聴覚障害学生のためのノートテイカーを始めとするスタディ・サポーターの養成を行った。その結果、5人の学生がノートテイカーとして協力。

<障害学生の在学状況>

聴覚障害学生	肢体不自由学生	その他	計
2人	4人	1人	7人

4) 退学・除籍者

07年度の退学・除籍者は28人となり、06年度より8人増加している。

28人のうち、6人が学費未納による除籍、退学者21名の内訳は、「進路変更（就職）の為」7人、「進路変更（進学・他大学への編入）の為」7人、その他の理由は「健康状の理由」・「修学意欲の喪失」・「経済上の事情」であった。

	1年次	2年次	3年次	4年次	計
2007年度	9	9	4	6	28
2006年度	5	2	5	8	20
2005年度	4	6	2	3	15

## 2. オンリーワンの即戦力養成プログラムへの取組

06年度より、学生のライフデザインに基づく総合的キャリア支援教育プロジェクトとして、全学的に取り組んでいる。2007年度は、1・2年次の全学教育科目を見直し、社会人基礎力の中核となる「日本語リテラシー」と「ライフデザイン構築力」の2つの能力を養成するため、「体験する／考える／書く／伝える」の四つの学習サイクルを中核に置き、「大学入門」「基礎演習」「コミュニティサービス」等の科目内容の見直しを行った。

### 1) 07年度卒業生の進路決定状況

- 卒業生の就職決定率 94.3% (5月20日現在)

就職決定者 82人 (男性43人 女性39人) 決定率94.3%

(内訳) 一般企業 50人 (県内26人 県外24人)

福祉関係 32人 (県内28人 県外4人)

就職希望者 87人 (男性48人 女性39人)

(内訳) 一般企業希望者 55人

福祉関係希望者 32人

県内就職希望者 58人 県外就職希望者 29人

- 福祉関係国家資格合格率 ※カッコ内は全国平均

社会福祉士 合格率25.6% (30.6%)

精神保健福祉士 合格率55.6% (60.4%)

### 2) 卒業生の質保証としてのキャリアアップ支援

- 公務員対策講座・・・前期15名受講、後期10名受講

- 情報処理検定・・・06年度に引き続き検定料の補助を実施。

日商文書作成(ワード)3級 13名合格(44名受験)

Excel検定3級 39名合格(52名受験)・同2級 合格0名(1名受験)

- 英語教育

英検・・・6月 14名受検 2級3名合格(7名受検) 準2級2名合格(5名受検)  
3級0名合格(2名受検)

TOEIC (IP)・・・7月 21名受験(最高スコア725点、最低スコア215点)

12月 33名受験(最高スコア800点、最低スコア210点)

- 実用中国語検定・・・受講生は中国留学経験者中心に9名。
- 日商簿記検定対策講座・・・今年度12月より新たに実施 受講生17名  
3級1名合格(3名受検)

### 3) 学生と指導教員の協働によるキャリア形成

- 全ての学年で個人面談を実施。気になる学生についてゼミ教官と情報交換及び意見交換を行った。
- キャリア形成ハンドブック使用の拡充・・・前年度に作成したキャリアハンドブックを大学入門・基礎演習・就職基礎・就職ガイダンス等で教材として使用した。

※キャリアハンドブック・・・学生のライフデザインと希望職種にそった四年間の学習計画、在学中の取得目標資格等、学生がゼミ担当教員との協働により主体的に作成するワークブックを発行する。このワークブックには併せて、社会人・職業意識の涵養に必要な知識や心構えを盛り込む。このワークブックを通して、学生の学習進度の自己評価をもとに、総合的な修学指導を行う。

- キャリア支援センターとゼミ担当教員の連携・・・「基礎演習Ⅰ」において、キャリア支援室ツアーを実施。全部のゼミ(9ゼミ)の学生が参加。キャリア支援室の利用法やパソコンによる適職診断・キャリアの観点から4年間で行うべきことのレクチャー等を行った。

### 4) 社会人になるための導入教育の強化

- 入学前教育の強化・・・推薦入試、A0入試による入学決定者を対象とした入学前教育を強化し入学後の導入教育への接続を図っている。

特に地域づくり学科では、入学決定後から入学までのほぼ毎月、課題図書に関する作文等の提出を呼びかけた。また、入学後、 Semester毎に基礎学力ブレースメントテストを実施している。

- 「大学入門」でのキャリア教育強化・・・1年次生必修科目である「大学入門」の中で四年間のキャリア支援プログラムの説明、一般職業適性検査の実施、そのフォローガイダンスを行った。
- 正規科目「就職基礎」の開設・・・2年次生対象に正課として「就職基礎」を開講。

全15コマをキャリア支援センター長・キャリア支援室中心に、外部講師や多くの教員を取り込んで実施した。受講生106名、出席率は常時80%台と高かった。

特にグループディスカッションや報告会等コミュニケーション能力の向上に

重点を置いた内容とした。また、評価を評価票（感想レポート）により行ったため文章力の向上にも役立ったと思われる。学生の感想でも、このような授業が必要であるという意見が大多数であった。

- 就職ガイダンスのプログラム強化・・・3年次生を対象とした就職ガイダンスのプログラムを強化するとともに専門演習との連携を図り、特に重要な回（採用担当者の話）では就職希望学生全員の出席を促した。全後期で12回開講。

5) 学びの基本は体験主義ーボランティアからインターンシップまで

- インターンシップ・プログラムの強化・・・一般企業、役所、福祉施設等、現行学科の進路先として想定される実習先を確保し、当該実習先への実習希望者を増やすとともに、事前・事後指導、実習先との連携を強化することとした。07年度は22人を派遣。派遣先で高い評価を受けたことで自信をつけたり、或いは現状で不足している点を認識するといった効果が生まれた。また、特に3年次生は就職に関する意識が目に見えて高まった。

● コミュニティサービスプログラム派遣状況

	プログラム名	1年	2年	3年	4年	合計
1	精神保健福祉活動支援	10		3		13
2	メンタルフレンドプログラム	3		12	2	17
3	コミュニティチャペル	6	1	3	3	13
4	のんのご諫早まつり	5		1		6
5	Teaching Japanese to International Student	4		8	1	13
6	日本語教育プログラム	11		6		17
7	詩とエッセイで未来の夢を語るコミュニティサービスプログラム	2	1	4		7
8	離島活性化活動支援	3	3	3	1	10
9	メンタルフレンドプログラムⅠ・Ⅱ	1	3	6	1	11
10	スタディサポート	6		4		10
11	学童保育支援	2	2	4		8
12	諫早ウェルビネス	3				3
13	まち研で地域地域支援	20				20
14	祭りと文化	14	2			16
15	翻訳によるNGOサポート	3		2		5

	プログラム名	1年	2年	3年	4年	合計
16	留学生日本語支援	16	1			17
17	国際交流イン多良見	3				3
18	高校福祉教育支援	7		7		14
19	まちの魅力発見CS	2		3		5
20	子育て支援ホーター養成事業	2	2	4		8
21	交換留学生	18				18
合 計		141	15	70	8	234

6) G P A制度を核とした責任ある教育体制の整備

<2007年度累積G P A学年別平均>

学年	1年	2年	3年	4年
平均	2.11	2.23	2.11	2.15
最高	3.79	3.79	3.62	3.93
最低	0.38	0.28	0.01	0.36

<学長賞・成績優秀賞>

学長賞・・・卒業時に四年間で卒業要件を全て充足し、かつ累積G P Aが 3.50 以上の上位の者、若しくは学期毎に、20 単位以上を修得し、かつ累積G P Aが 4.0 以上の者

四年生 2 人 (累積G A P 3.93 取得単位数 162 単位)

(累積G A P 3.85 取得単位数 187 単位)

成績優秀賞・・・学期毎に、20 単位以上を修得し、G P Aが 3.50 以上の者

1年	2年	3年	4年
6人	10人	4人	4人

7) 大学設置基準の一部改正に伴う学則変更

学部・学科の人材養成の目的・教育目標を学則上に明確にした。08年度は、「学士課程の再構築」に向けて、何がどこまでできるようになるのか、教育／学習目標のベンチマーク化を検討する。

### 3. 国際交流関連事業報告

国際交流プログラムの安定的な質的・量的確保のため、海外提携校の更なる開発を行うとともに、特にアジア地域における私費留学生の確保の拠点とした。

また、教学面においても、全学教育に「日本語」を、国際交流学科に「日本文化コース」を設置し、責任ある教育体制を整備することとした。

その結果、08年度入学者は1年次52人 編入学生2人 計54人を獲得できた。

ただし、今後留学生を一定数確保するためには、住居やアルバイト先を確保する必要がある。

#### <交換留学生の派遣・招致状況>

国	協定校名	期間	派遣数 (人)	招致数 (人)
韓国	仁徳大学	1年		2
	慶南情報大学	半年		4
	慶北科学大学	1年		2
	大邱大学	1年	2	2
中国	天津師範大学	1年	3	2
		半年		
台湾	長榮大学	1年		2
タイ	College of Asian Scholars	1年		2
	Phon Commercial and Technical College	1年		2
フィリピン	University of Baguio	1年	1	2
ブラジル	Methodist University of Piracicaba	1年		2
アメリカ	Portland Community College	1年		1
カナダ	Thompson Rivers University	1年		1
		半年		
	Bow Valley College	半年	1	
計			7	24

#### <海外スタディツアー・コミュニティサービス派遣状況>

研修地	期間	派遣数 (人)
カンボジア・タイスタディツアー	2週間	6
タイ・パヤオ CSP	1週間	5
タイ・コンケン CSP	2週間	6

#### 4. 地域連携関連事業報告

教育研究の実践それ自体をコミュニティサービスとして位置づけ、大学と地域社会との共生、資源の還元と循環を通して「大学の地域化」と「地域の大学化」を図るため、以下の事業を実施。

##### 1) 公開講座の開催状況

- NICE キャンパス コーディネイト科目「中心市街地の活性化を考える」全15回  
実施時期；2007年10月3日～2008年1月23日 毎週水曜 18：00～19：30 開催  
一般市民受講者数；のべ254人
- 鎌田實 講演会 ※諫早・大村 生と死を考える会発足記念  
実施時期；2007年10月31日
- エリカ・シューハルト（ハノーヴァー大学教授） 臨床パストラルケア講演会  
実施時期；2007年11月1日
- 憲法九条の会主催 伊藤真（法学館 伊藤塾塾長）による 講演会  
実施時期；2008年2月24日
- 精神障害者の医療・福祉・労働を考える～べてるの家を迎えて～  
実施時期；2007年11月2日

##### 2) 科目等履修生の受入状況

のべ82人（スピーキング、手話、死生学等）

##### 3) 社会人の受入状況

1年	2年	3年	4年	計
2人	4人	6人	4人	16人

##### 4) 受託調査・事業

調査・事業名	委託元	金額
小値賀町地域づくり推進事業	小値賀町	1,000千円
草の根技術協力事業（地域提案型）	JICA（国際協力機構）	1,110千円
子育て支援サポーター養成講座	諫早市	600千円
長崎っ子を育む行動指針モデル事業	長崎県	230千円
計		2,940千円

## 5. タウンキャンパス構想

06年度より、諫早市との連携により、中心市街地商店街協同組合が建設した複合商業施設「アエルいさはや」内に設置の「まちづくり工房」の企画・運営を行い、教育・福祉・保健・医療等の総合的ネットワークの拠点づくりに取り組んだ。

## 6. 高大連携関連事業報告

福祉フォーラム等の三学科の趣旨に即した高校生のライフデザインに関するコンテストやフォーラムを開催するとともに、高校における進路指導の動向や、高校生の進路選択についての調査研究を継続して行なった。特に鎮西学院高等学校との高大連携については、継続的な教育プログラムを行った。

### 1) 第10回高校生福祉フォーラム 11月10日開催

応募状況；15人 6校（県内2校県外4校）第10回を記念し、これまでの受賞者を迎えて、トークショーを行った。

### 2) 第2回 高校生まちづくりフォーラム 12月22日開催

諫早市内高等学校生徒を対象に、「もし私が諫早だったら」をテーマに意見発表会を開催した。特別審査員に、長崎市長 田上富久 氏を迎え、併せてパネルディスカッションを行った。

### 3) 異文化理解プログラム

国際交流学科の主催により、May Fiesta、International Café、International Forum、Speech Contest などの異文化理解プログラムを年間を通じて開催。多数の高校生が参加した。

### 4) 第5回九州地区福祉系高校教員研究セミナー

11月11日開催。文科省福祉教育に関する専門官を講師に迎え実施。九州圏内の福祉系高校教員が多数参加。介護福祉士制度の改正等、高校福祉教育の方向性について、意見交換を行った。

### 5) 高等学校スポーツ部活動の応援

従来の企画「ウエスレヤンカップ」をテニス部の他、バレー部を対象にも実施。また、夏のオープンキャンパスでも、スポーツ部対象の企画を実施した。この他、県央ラグビー選抜チームヘジャージの寄贈を行った。

### 6) 鎮西学院高等学校との連携

高大連携教育室を設置し、学院内進学者の入学後の修学状況について、高校の先生方と連携し、報告会を実施した。

また、従来の生徒向けオープンキャンパスに加え、入学前教育、1・2年生対象のオープンキャンパスを開催。また、保護者対象のキャンパスツアーや進学説明会を開催し、連携を深めた。

高大連携教育室における協議の結果、次年度よりオープンキャンパスを「5回」開催することが決定。(3年2回、2年2回、1年1回)

## 7. 学術研究の振興関連事業報告

### 1) 個人研究費の配分状況

07年度の個人研究費については、財務逼迫の折、一律150千円の配分となった。

### 2) 共同研究費の配分状況

地域総合研究所共同研究費は採択制により配分されるが、07年度の採択制の共同研究費は総額4,900千円（うち半額相当額は事業団特別補助の交付を受けた）。

採択された研究課題は次のとおり。

研究代表者	職位	共同研究課題一覧
草野洋介	教授	島嶼地区におけるアロスタティック老化指数の生理的多型性の研究
鈴木伸枝	教授	新自由主義下の格差社会における外国人労働者と性的マイノリティ問題についてー労働の「女性化」・「格差」概念の理論分析と実証研究ー
開浩一	講師	トラウマ・スティグマ・エージェンシーポストトラウマ理論と日比夫婦の負から正に日常経験を変容させる長期実践の研究ー
村上清	准教授	地域の福祉ニーズと非営利団体の役割についての研究
鈴木勇次	教授	離島における人口変遷の経緯と変動要因に関するー考察
佐藤快信	教授	離島を中心とした外部者インパクトの影響について
内山憲介	教授	高齢者の生きがいと地域づくりー地域力の測定の視点からー
裴瑯俊	准教授	地域福祉計画の進行管理を中心とした評価手法及び評価尺度の実証研究ー社会福祉協議会版バランス・スコアカードを使うパイロット研究の実施ー
高山乾忠	准教授	聖なるものとコミュニティー日中宗教文化の比較研究ー
中野伸彦	教授	専門職養成課程におけるソーシャルワーク実践事例の活用法に関する研究
菅原良子	准教授	大学生におけるアサーティブトレーニングの効果研究
亘明志	教授	強制動員と戦争の記憶に関する社会学的研究ーポストコロニアル・パースペクティブと動員史観アプローチを中心にー
山口弘幸	講師	精神障害当事者によるオルタナティブサービスの形成と発展に関する調査研究

### 3) 科学研究費補助金の獲得状況

07年度の科学研究費補助金は、継続分が1件、研究分担金が2件、新規採択はなし、となった。

研究種目	研究代表者	研究課題名	交付金額
基盤 (C)	亘 明志	離島における記憶の伝承と日韓海上交流史 -老岐朝鮮人海難事故をめぐって-	910 千円

## II 学生募集における重点施策

07年度も全教職員の連帯と協働をいま一度結集し、入学定員170名の確保に臨んだ。

### 1. 募集活動の重点施策

高校訪問数はのべ1254校（前年1084校）。特に運動部所属生徒及び顧問への積極的な広報活動を始め、信頼感と密度の高い訪問を実施。

進学説明会は、51箇所参加。来訪者165人（3年生）のうち31日が出願した。

オープンキャンパスは年3回（5月・7月・8月）に実施。結果、高校生316名が参加、うち出願者29名となった。オープンキャンパス参加者の多くが複数の競合大学のオープンキャンパスに参加する傾向が強まっており、他大学との差別化を一層進める必要がある。

### 2. 広報活動の重点施策

資料請求者のアップと「追い込み広報」、模試における志願者アップを重点目標とし、ホームページのリニューアルと情報の積極的更新、資料請求者・受験者（一般・センター利用試験）への追い込み広報、メディアへの積極的露出方策に取り組んだ。

本学HPの今年度アクセス数は約7100件（3/14現在）。対前年比52.3%となった。URLの変更が影響した模様。アクセス数は半減したが訪問数は130%、ページ数は210%と大幅にアップした。

受験者本人はもとより、保護者、高校教員向けの学科リーフレット（A4用紙1枚に凝縮）を作成。また2月以降の受験者に関しては合格通知に、各学科の教員より直筆の手紙を同封。歩留まりのアップに努めた。FM諫早のラジオキャンパスへの企画運営及び出演。又、今年度からは諫早ケーブルテレビ製作の情報番組へ企画の段階から参画。各種の本学の情報を地域へ発信した。

### 3. 入試の重点施策

受験生と高校教員（進路指導）のニーズに応えるため、推薦試験、特待生制度、一般入試の見直しを図った。推薦試験は「自己推薦」を廃止し公募制推薦に一本化した。また「スポーツ特別選抜入試」（A0方式）を新設した。

### Ⅲ 施設・設備の整備計画

財務逼迫の折、大規模な施設・設備の整備は実施しなかった。

《参考》長崎ウエスレヤン大学 2007 年度 事業計画

2007 年度の教育研究活動にあたっては、特に次の 4 点の強化に取り組む。

- 留学生の総合的な修学支援体制の整備
- オンリーワン即戦力養成プログラム
- 地域貢献
- 鎮西学院高等学校との教育研究連携

#### 1. 留学生の総合的な修学支援体制の整備

##### 1) 教育課程の変更

「国際交流」を今後いっそう推進させるため、様々な留学生を積極的に受け入れるにあたり、日本語運用能力養成プログラムを従来の自由単位科目から、卒業要件単位に再編成し、国際交流学科に「日本文化コース」を新設する。

この教育課程の変更に伴い、交換留学制度による招致留学生は、国際交流学科に新設する「日本文化コース」の学生として相当年次に受け入れることとし、半期又は 1 年のコースプログラムを編成する。また、日本語教育プログラム科目等履修生の履修単位は、本学入学後、卒業要件単位として認められることとなる。

##### 2) 総合的な修学支援体制の整備

この施策により、4 年後には、本科入学留学生、招致交換留学生、科目等履修生、あわせて 200 人規模の留学生を受け入れることとなり、総合的な修学支援体制の整備が必要となる。

このため、留学生の入学から卒業までの修学指導・生活支援に関する業務を一体的に行う「留学生支援センター」を設置し、入学・招致・派遣・交流事業の企画・管理運営、留学生の福利厚生、留学生（招致・派遣）相談に関する業務を統括することとする。また、これに伴い、国際交流関連事業の統括運営組織として「国際交流部」を設置する。

#### 2. オンリーワン即戦力養成プログラムの強化

2006 年度より全学的に実施している「オンリーワンの即戦力養成プログラム」であるが、特に、「基礎学力」に注目し、卒業生の質保証の観点から、全学教育科目の教育プログラムの強化を行う。

##### 1) 社会人基礎力を養成するコアカリキュラム

社会人基礎力の中核をなす「日本語リテラシー」「ライフデザインの構築力」の養成を強

化するため、「全学教育科目」の在り方をあらためて見直し、教育/学習方法の再構築を行う。

特に「大学入門」「基礎演習」「コミュニティサービス」では、「体験する/考える/書く/伝える」の四つの学習サイクルを中核に置き、授業科目間の連携を強化する。

## 2) リメディアル教育の強化

多様な学生のユニバーサルアクセス化が進む一方で、学生の基礎学力不足の傾向は、更に高まっていくことが予想される。学生一人ひとりのライフデザインの観点からの卒業後の進路決定・進路実現においても基礎学力の向上は、必須条件となるため、全学的に取り組む必要がある。

このため、入学生全員に、従来の英語のプレースメントテストのほか、「国語」「社会」について、プレースメントテストを実施し、基礎学力が不足している学生に対しては、「基礎学力講座」の受講を義務付けることとする。

## 3) 「全学教育課程」の設置

社会人基礎力の養成のため、上記のコアカリキュラムの責任ある運営組織として、学部・学科の別に「全学教育課程」を設置し、専任教員及び兼任教員を配置する。

## 3. 地域貢献への取り組み

「生涯学習センター」を設置し、本学の教育研究資源の地域還元積極的に取り組み、従来の市民公開講座や、朗読者養成講座等、社会人の学び直しニーズへ対応する。

また、昨年度より運営している「まちづくり工房」を始め、諫早市や中央市街地商店街組合連合、地元企業や商工会、地元ケーブルテレビやコミュニティFM等、産学官連携の拠点としての機能を強化する。

## 4. 鎮西学院高等学校との教育研究連携

「高大連携教育室」を設置し、高大連携事業の中核として、鎮西学院高等学校との教育研究連携を更に強化する。

また、高校生福祉フォーラムや、インターナショナルデイなどの特色あるプログラムをはじめ、テニスやバレーボールなどのスポーツ交流事業（ウエスレヤン杯）等を開催し、地元の高校との連携を更に強化する。

## Ⅲ 学生募集における重点施策

長崎・福岡・佐賀の地域2番手校（偏差値45～50）を最重点ターゲットとして募集活動を展開し基盤固めをするとともに、他のエリアへのテリトリーの拡大に取り組む。May Fiesta や高校生福祉フォーラム等のイベントと連動したオープンキャンパス企画を、年間を通じて開催し、受験生との直接コミュニケーションの機会を創出する。また、中期的な

取組として、本学の学びの特色を活かした高校向け出前講座に積極的に取り組む。

広報活動の重点施策としては、「医療福祉のウエスレヤン」「就職 100%保証」の信頼性を高める学びの内容・特色を、年間を通じて継続的な広報を行う。

留学生募集においては、引き続き、中国・韓国・台湾における姉妹校を中心とした連携を強化するとともに、海外向けホームページを充実させることにより、一定数を確保する。

#### IV 施設・設備に関する重点施策

語学情報センターの学生用 PC 及びサーバーが 2006 年度をもってリース期間終了となることに伴い、学内の学生の PC 環境を整備する。

## 鎮西学院高等学校 2007年度事業報告

校長 川村 正徳

### I 教育充実

#### 1. 建学の精神に基づいたキリスト教主義人格教育

① 毎日の礼拝や宗教行事、宗教（聖書）の授業等、神の栄光に預かる喜びを体得するプログラムを設定することにより、学院の建学の精神を堅持し、「魂（こころ）の教育」を推進することができた。また、諫早市民クリスマス、コーラス部によるプロテスタント教会での讃美奉仕等を通じて、鎮西学院の教育を地域にアピールすることができた。

#### ② 1年生夏期修養会（2泊3日、雲仙）

1年生を対象に「かけがえのない自分」と題して2泊3日の修養会を雲仙で実施。講師として梅光女学院中学・高等学校 松隈 協先生に依頼。講師が同盟校の現役教師ということもあって生徒たちに合わせた講演は大好評であった。

生徒のキリスト教に対する理解も深まり、クラスのまとまりもできたと感じている。

#### ③ 平和祈念礼拝（8月9日）

全校生、全教職員一同に介し、平和祈念礼拝を守り平和の尊さを改めて確認する機会とした。説教者 本学院理事長・院長 林田 秀彦。

礼拝後、本校OB 西 嗣也氏（新高1回卒）に「被爆者の証言について」と題して平和の尊さについて語っていただいた。

#### ④ 教師夏期研修会（1泊2日、雲仙）

本学院 長崎ウエスレヤン大学 山城 順教授により、「今に生きる建学の精神」と題してジョン・ウエスレーの信仰・思想を中心に学びを深める機会とした。

#### ⑤ 今後の課題

礼拝担当者（奨励者）の質的向上を目指し、聖書研究会を実施していく。また、地区内の教会案内を作成し、生徒の教会出席を積極的に推し進めていく。

#### 2. 学力強化

##### ① 学校評価制度の導入・定着化

2006年度から、長崎県の私立学校は、生徒・保護者・教師にアンケートをとり学校評価をすることになった。本学院の建学の精神である「キリスト教主義による人格教育」をはじめ、教育活動全般の取り組みが教育目標やシラバスに基づいて実施されているかを、客観的・総合的に評価して、今後の教育活動の改善と充実を図るものである。集計結果は3月に保護者、教職員に報告した。

##### ② 目標設定・自己申告制度の実施

2007年度から、長崎県全私立高校で教職員が職務目標を決め、到達度を自己評価する「目標設定・自己申告制度」を実施することとなった。

教職員の意識改革や能力開発を促すことで、私学の活性化、魅力を引き出すことが目

的である。今年は初年度ということもあり、計画通り進めることができなかつたが徐々に定着化を図っていきたいと思っている。

### ③ 対教師研修活動強化

キリスト教学校同盟の研修会（西南地区）、県主催の各種研修会等本校のニーズに合致した研修会に積極的に参加。また、長崎ウエスレヤン大学への学院内研修という独自の研修派遣プログラムを実施した。このことによりカウンセラー体制をより強化できるものと考えている。

進学担当教員が中心となり広島県、福岡県の私学の進学状況を視察し、研修を行った。また、外部講師を招き「高校生のいじめ・不登校・発達障害」、「高校教諭向けコーチング研修」と題して校内研修を実施した。

### ④ 授業の内容充実

朝補習、夕補習、居残り自習時間の制度化、個人指導の徹底により学力向上に努めた。

また、授業公開、研究授業週間の設定、授業観察表による教員相互評価を実施し、授業の質的向上に努めた。

## 3. キャリア開発（進路指導）

### ① 進学支援

授業の充実、補習（朝補習、夕補習、学習合宿）の強化により顕著な進学実績を挙げることができた。九州大学3名、長崎大学7名（医学部医学科1名含む）等国公立大学33名合格、4年生大学145名合格。

### ② 就職支援

就職指導法のプログラム化、公務員受験講座の開設、インターンシップ制度の強化、就職専門者（嘱託）の配置を行うことにより、公務員合格者4名（諫早市役所、長崎県警、福岡県警、刑務官）を含め就職率100%を達成することができた。今後は校友会企業経営者とのコンタクトを強化していく必要がある。

## 4. CHSの活用

CHS（鎮西学院セミナーハウス）の活用により、進学・就職に関する個人指導の徹底を図り、「生徒を育てる」進路指導強化を行う。今後はカウンセリング活動の充実やクラブ活動の合宿にも利用していく。

## 5. 国際交流

### ① 留学生受け入れ

ライオンズクラブより1名、ロータリークラブより1名、カナダ・アップルビカレッジより3名受け入れ。

### ② 英語圏への海外修学旅行

3月上旬、2年生全生徒がカナダ・バンクーバーへの修学旅行（4泊6日）に参加し、異文化体験を積む。

### ③ English Bible Class の活動強化

今年度5回行い、教員6名、生徒17名、留学生2名が参加。

また、教師の理解を得るために教師のための English Bible Class を実施した。

④ 長崎ウエスレヤン大学との連携

ウエスレヤン大学教員、学生によるアメリカ、カナダ、ブラジル、韓国、中国、タイ、フィリピン等との文化交流会を実施した。6月の国際交流プログラムに60名の生徒が参加した。

⑤ 今後の課題

姉妹校であるカナダ・アップルビカレッジとの交換留学制度をすすめる。また、3月下旬実施の15日間のロンドンへの語学研修ホームステイへの参加を促す。

## II 生徒募集対策

① 学則定員の確保

県内私学各校の大半が定員縮小を図っているが、本校は2007年度も従来通り学則定員300名の確保を目指し、募集活動を展開したが結果は94%（手続き者282名）の達成率であった。今後は、「キリスト教による人格教育」「進学・就職実績」「クラブ活動の充実」をピーアールの柱とし、きめ細かな募集活動を行う。

また、今年度の反省を生かし、2次募集活動の充実等を図っていく。

② ターゲットエリアと市場ニーズの把握

長崎地区の一部の中学校に対し、学校長・教頭も同行し計画的な訪問を行った。また、スクールバス長崎線の増強もあって、結果16名の手続き者であった（前年比+12名）。

離島は従来通り、対馬地区を重点地区として、中学校訪問の徹底、地区PTAを開催した。手続き者は10名であった。（前年比+5名）

今後は、地元諫早地区、大村地区の中学校及び塾に対してきめ細かな募集活動を展開していく必要がある。

③ 推薦入学者の拡大

推薦入学者に対して入学金の免除する特典制度を設け、推薦入学者増を目指して募集活動を行った。これからも魅力ある学校作り、地域から信頼される学校作りに努力をし、推薦入学者の拡大を図っていく。

④ オープンキャンパス

2007年度は、7月、8月、11月の3回実施した。参加者の目標の1300名には届かなかったが1108名の参加者を得ることができた。新たに実施した8月のオープンキャンパスでのクラブ活動体験入部は中学生に大変好評であった。

## III 経費節減

入札・合見積りにより工事費等を低く抑えることに努めた。また、経費節減に対する教職員の意識の向上（裏紙使用、節電など）を図った。

#### IV 施設・設備整備計画

##### ① 校舎～笹森卯一郎記念体育館 渡り廊下

亜鉛メッキ処理していなかったために腐食が激しく、倒壊の恐れがあった渡り廊下を8月に立て直した。経費節減のために、屋根の部分は既存のものを使用。新渡り廊下は、亜鉛メッキ処理をして半永久的に使用できるものとした。また、手すりの高さも旧渡り廊下よりも高くし、生徒等の落下防止を図った。

##### ② 百周年記念館内空調機の整備

設置後約24年が経過しトラブルが頻発していた校長室、校友会ホール、メディア室の空調機を8月に入れ替えた。新空調機は、旧空調機と比較すると消費電力が70%程度少なく、経費節減につながっている。

##### ③ 電話交換機及び電話機の入替え工事

2007年6月18日に落雷により電話交換機（本体）が被害を受けた。応急措置により復旧できたが、次の三つの理由により電話交換機及び電話機の入替え工事を行うことにした。

(i) 設置後15年が経過していたため、今後トラブルが発生した場合に部品の入手ができないこと。

(ii) 旧電話設備は、機能（録音機能、ナンバーディスプレイなど）が乏しいこと。

(iii) 新電話設備は、ひかり電話の導入が可能であるため、経費節減につながること。

入替え工事は業務に支障のないようにするために休業期間（8月11日～15日）に行った。

#### v 施設・設備投資計画

##### ① 校舎内レイアウトの改善・改装

生徒、来訪者の不便解消、また執務環境改善など校舎内レイアウトについては、優先順位を考慮し、次年度以降に整備検討していく。

##### ② IT化推進

情報処理教室のパソコン整備については、2008年度中に実施する（国庫補助金を申請中）。校内LAN整備による事務処理の効率化については検討中である。

##### ③ 屋外トイレの整備

屋外トイレの整備については、いくつかの規制（風致地区など）等の問題があり今後さらに研究が必要である。

##### ④ テニスコートの整備及びグラウンド周囲排水の整備

テニスコートの整備については、2008年度中に整備（2008年6月26日着工予定 照明設備、フェンスも設置）。グラウンド周囲の排水については、優先順位を考慮し、さらに研究する必要がある。

##### ⑤ 旧体育館建て替え工事

老朽化の激しい旧体育館の建て替えに向け、建築委員会を立ち上げ検討していく。

## 1、教育における重点施策

- ① 幼児教育は、人生の土台(人間形成)を育む大切な基礎づくりと心に刻んで保育に努めた。
- ② キリスト教の精神に基づき、愛の言葉で子ども達の心を温め合い、優しさや、慈しみの心を育み、毎朝、子ども達と教師が祈りをもって一日をスタートさせた。
- ③ 宗教行事の礼拝やピースチャペルでの合同礼拝(林田院長先生、山城先生、鉄口先生各牧師先生方のご協力を得て実施)。また園ホールでの合同礼拝(園の教師で実施)。すべての礼拝で、神様に愛されていることに感謝しながら過ごすことが出来た。
- ④ 学院を包む広大で緑豊かな自然の中で感性を育て、「幼児にとっては遊びが仕事」という考えの下でのびのびと遊び、その中で人生の「生きる力」の礎になるように保育を展開してきた。
- ⑤ ひかりの会(保護者会)と共に手を取り合って子ども達のために理解と協力を訴え実ってきている。

## 2、園児募集対策

この年度の全園児数64名はあまりにも激減しすぎており、そこで職員の意識改革のため「初の園児募集委員会」を開き「勝ち残るための戦略」として、職員全員で汗をかき募集活動の充実を図っていくと宣言し実施した。

- ① 園児募集の重点施策  
基本的に「保育の充実」にある事を力説。全員で汗をかき努力して来た。
- ② 緑豊かな学院全体の活用強化を実施した  
高等学校のグラウンド、大学のキャンパスがすべて子ども達の遊びの場となり、子ども達の心をつかみ保護者にも喜ばれている。
- ③ 行事の見直しや、充実を前面に打ち出した  
子ども達や保護者の心をつかんだ。そのことは、職員と保護者とのコミュニケーションをとるために展開してきた。同時に子ども達からも大いに喜んでもらった。(新しい行事:親子で楽しむ夏の夕べ2007・ふれあい動物体験・親子レクリエーション・パパの会設立(ソフトボール大会実施))
- ④ インターネットによるブログの開設  
ほぼ毎日更新している。入園時期の園選定の一助にもなったし、保護者や卒業生、一般市民の方々にもアピールできた。
- ⑤ 未就園児親子教室の実施  
おひさまくらぶ(2歳以上の未就園児親子教室)月3回。グリーンクラブ(1歳以上未就

園児親子教室)月1回実施。親子共々喜んでもらえており、オープンキャンパスとして広報にも結びついている。

⑥ 園長体操教室導入

他園には真似のできない教室を開き、子ども達や保護者に喜んでもらっている。

⑦ ポスター、チラシの充実

斬新なものにして、掲示はかつて無いほどの強化をした。職員やその知人、また校友会や高校・大学職員のみなさんにも協力を依頼し、この広報活動で幼稚園の存在感が図れた。

⑧ 園長自ら正門に立ち、朝の挨拶運動励行

重要な保護者・園児とのコミュニケーションを図る手段として実行している。

⑨ 園児数一覧表

	合計	入園児数	年少	年中	年長
2004年度	94	29	27	31	36
2005年度	80	24	23	27	30
2006年度	77	27	19	30	28
2007年度	64	19	13	20	31
2008年度	66	37	24	23	19

### 3、施設、設備及び環境整備

- ① 園舎内外の塗装工事完了し、明るい雰囲気と好評である。
- ② 職員室の改修工事及び園長室改修工事完了。
- ③ 園庭内すべての遊具にペンキ塗りを職員総掛かりで実施。明るいイメージアップにつながり好評である。

### 4、危機管理

- ① 夜間の防犯管理は警備会社に委託し、警備体制をとっている。
- ② 幼稚園の遊具による事故は致命傷となるので、学期ごとに職員総出で点検を実施している。
- ③ 刺股器具を購入し職員室に設置。不審者対策に目くばり、気くばりを職員に徹底強化。
- ④ 不審者対策の一環として、幼稚園正門横垣根添いに鉄製フェンス設置。保護者に安全、安心をアピールできた。
- ⑤ 幼稚園単独の防火管理者を原田主任に依頼し、受講してもらい県央諫早消防署より認定証が交付された。
- ⑥ 防犯、防災のための避難訓練を各学期ごとに2回実施。保護者に安全安心をアピールしていきたい。